

朝鮮民主主義人民共和國

統一方案集

朝鮮民主主義人民共和國 統一方案集

朝鮮・平壤

外國文出版社

1982

目 次

はしがき	一
一 各時期の情勢に即した祖国統一案	三
1 統一的民主主義自主独立国家の建設をめざして	三
2 共和国の旗のもとに祖国の平和的統一をめざして	二
3 アメリカ帝国主義者の武力侵略の阻止と 朝鮮問題の平和的解決のために	二
4 戦後、停戦を強固な平和にかえ、祖国の平和的統一を 促進するために	二六
5 四月人民蜂起以後、南北連邦制と広範な経済・文化交流を実現し、 祖国の平和的統一を促進するために	二四
6 南朝鮮の軍事ファシスト独裁に反対し、新たに平和的統一の 道を切り開くために	三

7	北と南の対話を通じての自主的平和統一の実現をめざして	二〇八
8	北と南の対話を再開し、祖国の平和的統一を 新たに促進するために	一四四
9	連邦形式の統一国家創設による祖国統一をめざして	一六六
二	南朝鮮人民にたいする同胞愛的措置	一九三
むすび		二六

は し が き

朝鮮労働党と共和国政府は、外部勢力によつて国が分断されたときから、全朝鮮人民の一致した意思と念願にもとづいて主体的な祖国統一方針を示し、その実現をめざして誠意ある努力を尽くしてきた。

金日成主席はつぎのように述べている。

「祖国統一のためのたたかいでわが党が一貫して堅持している基本方針は、いかなる外部勢力の干渉も受けることなく、朝鮮人民自らの手で自主的に民主主義的原則にもとづいて平和的方法で国の統一を実現することであります。わが党は、この基本方針にしたがつてわが国の情勢の要求とわが民族の意思を正しく反映した誰にも受け入れられるもつとも公明正大で合理的な祖国統一案を度重ねて提案し、その実現のため最大の努力を払いました」

これまで朝鮮労働党と共和国政府は、二百余回にわたつて祖国統一方案および提案を示し、一九五五年から一九六四年までの十年間だけでも、三十数回にわたつて南朝鮮人民にたいする救済対策を講じた。

これらの祖国統一の諸方案および提案には、統一の前提条件をつくり、それにもとづく自由な南北総選挙を通じての統一的中央政府の樹立によつて完全統一を実現する問題、それが直ちに実現できない場合は、南北連邦制など一連の中間過程をへて漸次完全統一へアプローチする問題、北と南の間の政治、経済、文

化、軍事の各分野にわたる多面的な合作と人の往来、文通などによる統一への有利な条件づくり、これら諸問題の解決をはかるため北と南の接触と協商をおこなう問題など具体的方策と、分断によって南朝鮮人民がなめている苦痛を減らすための一連の同胞愛的措置が含まれている。

これら祖国統一の諸方案および提案は、心から統一を願う人であれば、誰にも受け入れられるもつとも公明正大で、合理的かつ現実的なものである。

以下に、各時期の情勢に即して朝鮮労働党と共和国政府が示した祖国統一の諸方案および提案のうち、主要なものをひろってその内容を概括することにする。

一 各時期の情勢に即した祖国統一案

1 統一的民主主義自主独立国家の建設をめざして

金日成主席の指導による長期の血みどろの抗日革命闘争は勝利をおさめ、一九四五年八月十五日、朝鮮は日本帝国主義の植民地支配から解放された。

解放された朝鮮人民には、独立と繁栄の新しい朝鮮を建設する輝かしい展望が開かれた。

一方、降伏した日本軍隊の武装解除のため、朝鮮には北緯三十八度線を臨時境界線にしてソ米両国軍隊が進駐するようになった。かれらは民主的な自主独立国家の建設をめざす朝鮮人民のたたかいに有利な条件をつくるべきであった。

金日成主席はこうした情勢のなかで、解放された朝鮮の進むべき道を明らかにしつぎのように述べた。

「祖国解放の歴史的大業がなし遂げられたいま、われわれには新しい闘争課題が提起されています。われわれは勝利の成果にもとづいて朝鮮革命をひきつづき前進させ、朝鮮人民自身の手で豊かで強力な自主独立国家を建設しなければなりません」

豊かで強力な自主独立国家を建設するためのこの路線は、全朝鮮人民の熱烈な支持を受け、国際的にも

歓迎された。

一九四五年十二月二十七日、モスクワで開かれた三国外相會議は、朝鮮を獨立国として復興させ、民主的基礎のうえで發展するようにし、長期にわたる日本帝國主義植民地支配の影響を早急に取り除くため、朝鮮民主主義臨時政府の樹立を決定した。

金日成主席は、一九四六年三月二十三日、モスクワ三国外相會議の決定実行のためのソ米共同委員会が活動を開始したと関連し、共同委員会は朝鮮人民の利益に即して活動し、朝鮮人民が切望する統一的臨時政府の樹立問題を解決すべきであるとして、臨時政府の実現すべき二十か条政綱を發表した。

金日成主席は、ソ米共同委員会がおこなわれる全期間にわたって朝鮮の民主的發展と統一的臨時政府の樹立を促進するための一連の措置を講じ、人民大衆をその実現をめざすたたかいへと力強く導いた。

金日成主席は、朝鮮の分裂を画策するアメリカがソ米共同委員会を決裂させ、不当にも朝鮮問題を国連総会に上程して「国連臨時朝鮮委員会」をつくり、その監視のもとに南朝鮮で単独選挙を実施しようとしていることと関連して、一九四八年一月一日の新年の辞で、朝鮮の分裂を防ぎ統一を実現するため朝鮮からすべての外国軍隊を撤退させ、朝鮮人民の手によって統一的な自主獨立国家、民主主義人民共和国を樹立する方針をうちだした。

一九四八年二月二十日、北朝鮮の民主的政党、大衆団体の連合組織である北朝鮮民主主義民族統一戦線中央委員会第二十四回会議は、朝鮮人民の手で完全自主独立国家を建設するため全朝鮮人民に送るアピールを採択した。

アピールは、朝鮮人民の代表の参加なしに採択された国連のいかなる決議も排撃し、「国連臨時朝鮮委員団」の監視のもとに南朝鮮で単独選挙を実施しようと企むアメリカの策動に反対し、外部勢力の干渉を排して朝鮮人民自身の手で全国的な総選挙を実施し、民主主義的統一政府を樹立すべきであると強調した。

金日成主席は、一九四八年三月九日、北朝鮮民主主義民族統一戦線中央委員会第二十五回会議でおこなった演説『反動的な南朝鮮単独政府の選挙に反対し、朝鮮の統一と自主、独立をたたかいたるために』のなかで朝鮮民族の統一と祖国の自主独立のために、朝鮮からすべての外国軍隊を撤退させたあと、一般、直接、平等の原則にもとづく秘密投票によつて全朝鮮最高立法機関を選挙し、そこで憲法を承認し、国の隆盛発展をはかり人民を幸福へ導く真の民主主義的人民政府を組織すべきであると述べた。

一九四八年三月二十五日、北朝鮮民主主義民族統一戦線中央委員会第二十六回会議は、南朝鮮の政党、大衆団体に送る北朝鮮の政党、大衆団体の公開書簡『南朝鮮単独政府の樹立に反対する南朝鮮の政党、大衆団体に告ぐ』を採択した。

公開書簡の基本内容はずぎの通りである。

- (一) 南朝鮮で実施しようとする単独選挙を徹底的に粉碎し、「国連臨時朝鮮委員団」を直ちに退去させ、

朝鮮から外国軍隊を撤去させたいと、一般、直接、平等の選挙原則にもとづく秘密投票によって真の人民国選挙を全国的に実施しよう。

(二) 南朝鮮単独選挙の実施に反対してたたかう南北朝鮮のすべての民主的政党・大衆団体代表の連席会議を一九四八年四月に平壤で開催することを提案する。

(三) 南朝鮮で単独選挙に反対し、祖国の民族的統一を主張する韓国独立党、南朝鮮労働党、民主独立党、人民共和党、勤労人民党、新進党、民主韓独党、朝鮮労働組合全国評議会、全国農民組合総連盟、南朝鮮民主女性同盟、民主愛国青年同盟、南朝鮮青友党、基督教民主同盟、全国儒教連盟、文化団体総連盟など南朝鮮の政党、大衆団体に、今後開催される会議に参加するよう呼びかける。

金日成主席は、一九四八年三月二十八日、北朝鮮労働党第二回大会でおこなった中央委員会の活動報告のなかで、朝鮮の政治情勢と祖国統一をめざすたたかいについて述べ、統一的民主主義政府を樹立する北朝鮮労働党の主張をいま一度明らかにした。

主席は報告のなかで、北朝鮮労働党は一般、平等、直接の選挙原則と秘密投票による最高立法機関の選挙を全朝鮮にわたって実施することを主張すると述べた。そしてこの機関は、民主的憲法を制定し、朝鮮人民を民族的繁栄と幸福へ導く真の民主主義的人民政府を樹立すべきであるが、朝鮮人民がこのような方法で統一政府を樹立するのは、外国軍隊が撤退してはじめて可能であると強調した。

主席は、全朝鮮人民の要求にかなうこの主張の実現をめざし、南北朝鮮のすべての愛国的民主勢力と祖国の自由と独立を志向する良心的なすべての人びととの団結を強めて、アメリカ帝国主義者の狡猾な植民

地奴隸化政策に反対して、あくまでたたかなければならないと強調した。

そのため北朝鮮労働党は、北朝鮮の民主的政党、大衆団体とともに、南朝鮮単独政府樹立に反対する南朝鮮の各政党、大衆団体に、一九四八年四月、平壤で南北朝鮮の民主的諸政党、大衆団体の代表者連席会議の開催を提案したと指摘し、この連席会議では国内情勢を討議し、国土を分断しようとする反動派のあらゆる企みを粉碎して祖国の統一を促進し、世界の自由愛好諸国と対等な一員となるべき朝鮮の民主主義的統一国家の樹立を促進する具体的な計画と方策が採択されるであろうと述べた。

一九四八年四月十九日、平壤で南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席会議が開催された。

会議は、南北朝鮮の五十六の政党、大衆団体の代表の参加のもとにおこなわれた。

金日成主席は、四月二十一日、会議で歴史的な報告をおこなった。

主席は報告のなかで、朝鮮の政治情勢を全面的に分析し、この会議で祖国の政治情勢についてきたんなく討議し、朝鮮の永久分裂を企むアメリカと「国連臨時朝鮮委員会」の策動と南朝鮮単独選挙に反対してたたかう共同対策を講じるべきであると強調した。

一九四八年四月二十三日、南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席会議では、朝鮮の政治情勢に関する決議書が採択された。

決議書は、祖国の分断と南朝鮮人民のアメリカ帝国主義者への従属を許さないため、南北朝鮮の諸政党、大衆団体は、すべての力を結集して南朝鮮単独選挙排撃運動を大衆的に展開してそれを破綻させ、朝鮮か

ら外国軍隊を撤退させ、朝鮮人民の手で統一的民主主義自主独立国家を樹立するため力強くたたかうべきであると強調した。

一九四八年四月二十三日、南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席會議は、全朝鮮同胞に送る檄文を採択した。

檄文は、南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席會議で、南朝鮮単独選挙反対闘争全国委員会を組織し、道、市、郡、面、農村、工場、製造所、商業・事務機関のいずれを問わず、朝鮮民族の全居住地域に、各政党の連合による単独選挙反対闘争委員会を組織することに決定したと述べ、祖国の自由と独立を重んずるすべての人が、闘争委員会に参加して南朝鮮単独選挙を破綻させるとともに朝鮮から外国軍隊を撤退させ、いかなる外部勢力の干渉も排除して、朝鮮民族同士で朝鮮問題を解決するための救国闘争を展開すべきであると強調した。

一九四八年四月二十三日、南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席會議は、朝鮮からの外国軍隊の撤退と関連して、ソ米両国政府に送る要請書を採択した。

要請書は、朝鮮からソ米両国軍隊を同時に撤退させ、外国の干渉なしに、朝鮮人民が自己の意思にしたがって自由な民主的選挙を全国的に実施し、統一的な民主主義的国家を創建して、朝鮮が民族的独立を達成し、世界自由愛好諸国と対等な一員となる可能性をもつようソ米両国政府に要請した。

一九四八年四月三十日、南北朝鮮の政党・大衆団体指導者協議会は、南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席會議で討議された南朝鮮单独選挙を破綻させる問題と外国軍隊の撤退問題、そしてその間に提起された諸問題について討議し、つぎのような内容の共同声明を発表した。

(一) 朝鮮から外国軍隊を直ちに同時撤退させることは、現情勢のもとで、朝鮮問題を解決する唯一の正しい道であるがゆえに、アメリカはこの提案を受け入れ、その軍隊を南朝鮮から撤退させるべきである。

(二) 朝鮮からの外国軍隊の撤退後、内戦その他朝鮮人民の念願にそむいかなる無秩序な事態も起こらないであらう。

(三) 外国軍隊の撤退後、南北朝鮮の諸政党、大衆団体が共同で全朝鮮政治會議を開き、朝鮮人民の各階層を代表する民主主義臨時政府を直ちに樹立し、それが国家のいつさいの権力と政治・経済・文化生活にわたって責任を負うようになるであらう。

臨時政府は、最初の課題として一般、直接、平等の秘密投票によって統一的朝鮮立法機關選挙を実施し、選挙された立法機關は朝鮮憲法を制定し、統一的な民主政府を樹立するであらう。

(四) 一千万名以上の党员と盟員を擁する南北朝鮮の諸政党、大衆団体が南朝鮮单独選挙をホイコットしているだけに、有権者の圧倒的多数の反対するこの单独選挙はたとえ実施されても欺瞞的なものに過ぎない。南北朝鮮の政党、大衆団体は、单独選挙によってつくられる单独政府を決して認めないであらう。

金日成主席は、一九四八年六月二十九日の南北朝鮮政党・大衆団体指導者協議会で『南朝鮮の单独選挙と関連した祖国の政治情勢と祖国統一の闘争対策』という報告をおこなった。

主席は報告のなかで、アメリカ帝国主義者のでっちあげた南朝鮮単独選挙によって祖国分断の危機はさらに深まり、情勢は新たな重大な局面を迎えている、これは決定的な救国対策を講じることを求めていると強調した。

主席はまたこのような事態に照らして、朝鮮人民の意思を代表する全朝鮮最高立法機関を直ちに創設し、朝鮮民主主義人民共和国憲法を施行すべきであり、単独政府ではなく、南北朝鮮の政党と大衆団体の代表で全朝鮮政府を樹立しなければならないと述べた。

一九四八年七月五日の南北朝鮮政党・大衆団体指導者協議会は、金日成主席の提案にしたがって統一的な民主主義独立国家の樹立をめざす闘争方策を決定した。

その基本内容はつぎの通りである。

(一) 不法にでっちあげられた南朝鮮「国会」とこれにもとづいてつくられる南朝鮮かいらい政府を断固暴露、排撃するであらう。

これは、南朝鮮「国会」とかいらい政府の樹立が祖国に反人民的、反民主的体制を樹立し、国を永久に分断し、南朝鮮をアメリカ帝国主義者の植民地、軍事基地にかえる目的をもっているからである。

(二) 選挙を実施して朝鮮最高人民会議を創設し、南北朝鮮の代表者で朝鮮中央政府を樹立すべきである。
(三) 朝鮮最高人民会議と朝鮮中央政府は、直ちに朝鮮から外国軍隊を同時に撤退させるべきである。

金日成主席は、一九四八年七月九日、北朝鮮人民会議第五回会議でおこなった「朝鮮民主主義人民共和

『国憲法の施行について』という報告のなかで、南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席會議が、祖国分断の危機に臨んで南北朝鮮の愛国的人士の講じた最初の救国対策であったとすれば、朝鮮民主主義人民共和国憲法の施行は、祖国統一をめざす朝鮮人民の闘争が第二步を踏みだしたことを意味すると強調し、さらに一歩進んで全朝鮮の単一立法機関と単一政府を樹立すべきであり、全朝鮮人民の立法機関となるべき朝鮮最高人民會議を選挙しなければならないと述べた。

金日成主席の提議にもとづく南北朝鮮政党・大衆団体指導者協議会の決定によって、一九四八年八月二十五日、南北朝鮮の全地域にわたって朝鮮最高人民會議代議員選挙がおこなわれた。北朝鮮では、合法的で自由な選挙がおこなわれ、有権者の九九・九七％が投票に参加した。南朝鮮では、アメリカ帝国主義者とその手先の弾圧のもとで地下選挙がおこなわれ、有権者の七七・五二％がこれに参加した。全国的な総選挙によって、南北朝鮮の各政党、大衆団体および各階層人民の代表五百七十二名が最高人民會議の代議員に選出された。

一九四八年九月八日、南北総選挙の勝利にもとづいて、平壤で朝鮮民主主義人民共和国最高人民會議第一次會議が開かれた。

金日成主席は、九月九日の會議で、朝鮮民主主義人民共和国の創建を全世界に宣布した。

主席は、九月十日の会議で朝鮮民主主義人民共和国政府の政綱を発表し、そのなかで国の完全な統一を実現し、富強な民主主義自主独立国家建設をめざし、全朝鮮人民を共和国政府のまわりにかく結集して祖国統一のたたかいに動員し、国土保全と民族統一の先決条件となるソ米両国軍隊の同時撤退を実現するため全力を尽くすであろうと述べた。

主席の提唱により、九月十日の会議では、ソ米両国軍隊の同時撤退を求める両国政府への要請書が採択された。

要請書は、全朝鮮人民を代表した唯一の合法的な最高立法機関である朝鮮最高人民會議が創設され、南北朝鮮の代表からなる統一政府が樹立され、ソ連政府がソ米両国軍隊の同時撤退を提案し、その軍隊を即時撤退させる準備がととのっている状況のもとで、アメリカ政府も自国軍隊を朝鮮から撤退させることに同意すべきであると強調した。

朝鮮人民の唯一の合法的政府である朝鮮民主主義人民共和国政府が樹立されるにともない、祖国統一をめざす朝鮮人民の闘争は、共和国の旗のもとにいつそう強力に展開されるようになった。

2 共和国の旗のもとに祖国の平和的統一をめざして

朝鮮民主主義人民共和国が創建されたのち、ソ連政府は、ソ米両国軍隊の同時撤退に関する朝鮮最高人

民会議の要請にしたがつて、一九四八年末まで朝鮮から自国軍隊を率先して撤退させた。

しかし、アメリカはその軍隊を南朝鮮に残留させる理由がなくなったにもかかわらず、長期駐屯を画策し、南朝鮮にたいする植民地的軍事基地化政策を強化し、朝鮮民主主義人民共和国にたいする侵略戦争の準備を急いだ。

こうして朝鮮人民には、南朝鮮からアメリカ軍を撤退させ、同胞同士の内戦を防止し、祖国を平和的に統一する課題が提起された。

金日成主席はつぎのように述べている。

「朝鮮民主主義人民共和国政府はわが国のすべての愛国的・民主的政党、大衆団体および全人民とともに、同胞同士の内乱と流血の惨禍をさけ、平和的方法による祖国の統一のためにあらゆる努力を傾けてきました」

一九四九年一月十九日、朝鮮民主主義人民共和国通信相は南北朝鮮間の郵便物交換と関連して声明を発表した。

声明は、一九四六年二月のソ米両国軍代表協議会の取り決めによって南北朝鮮間の郵便物交換が実施されてきたが、北朝鮮からのソ連軍の撤退にともない協定の効力が失われるので、共和国は独自に南朝鮮との郵便物交換を従前通りつづけるとせん明した。

一九四九年五月十六日、北朝鮮民主主義民族統一戦線中央委員会は、南北朝鮮の愛国的諸政党、大衆団